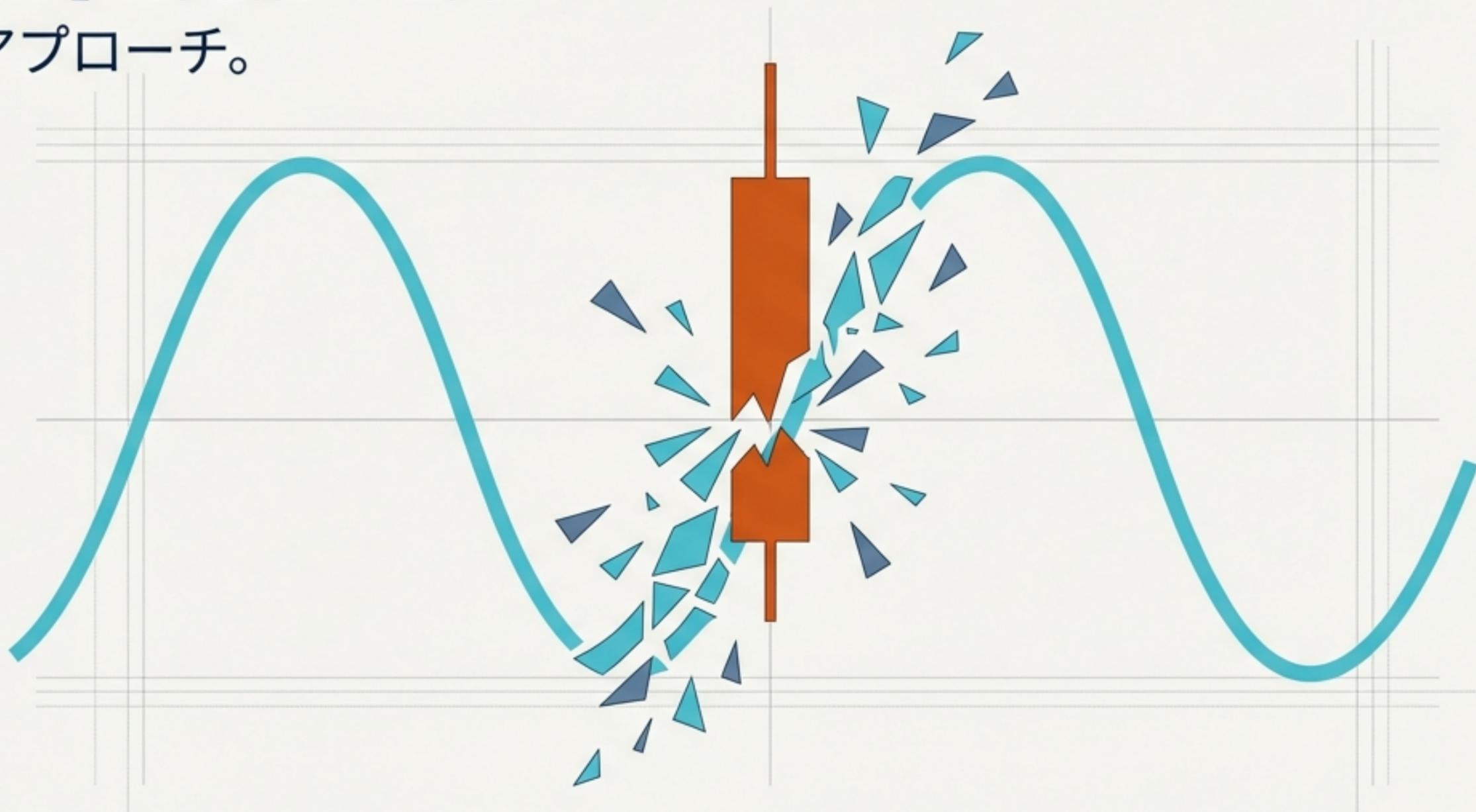


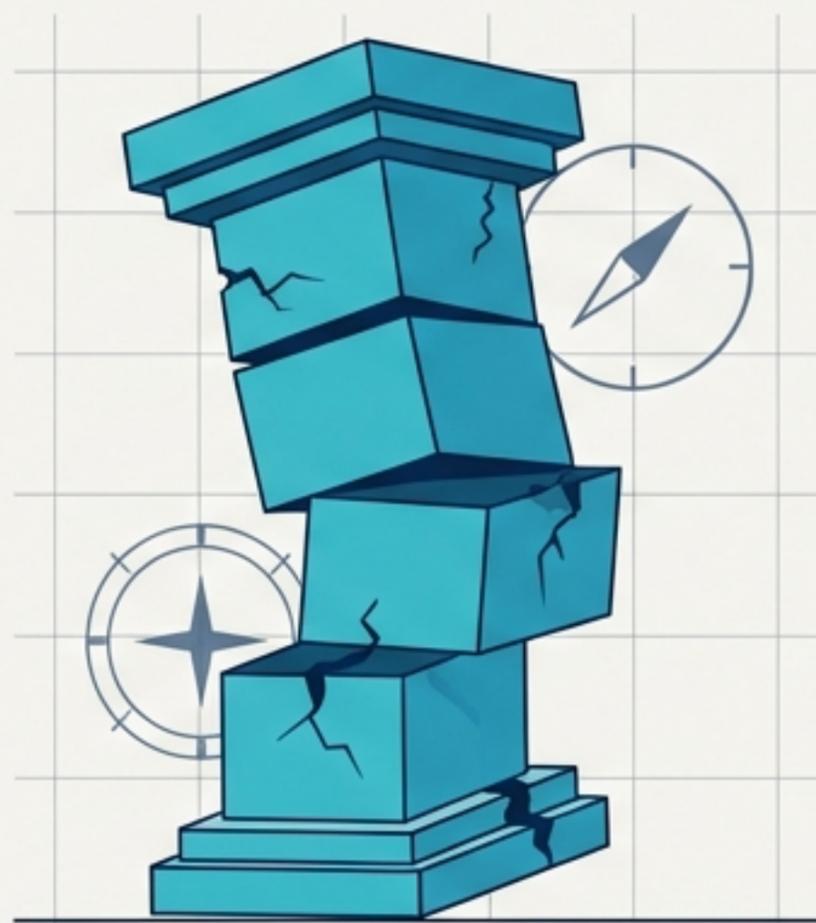
# サイクル理論の真実

教科書通りの「カウント」が失敗する理由と、  
勝つための現実的なアプローチ。



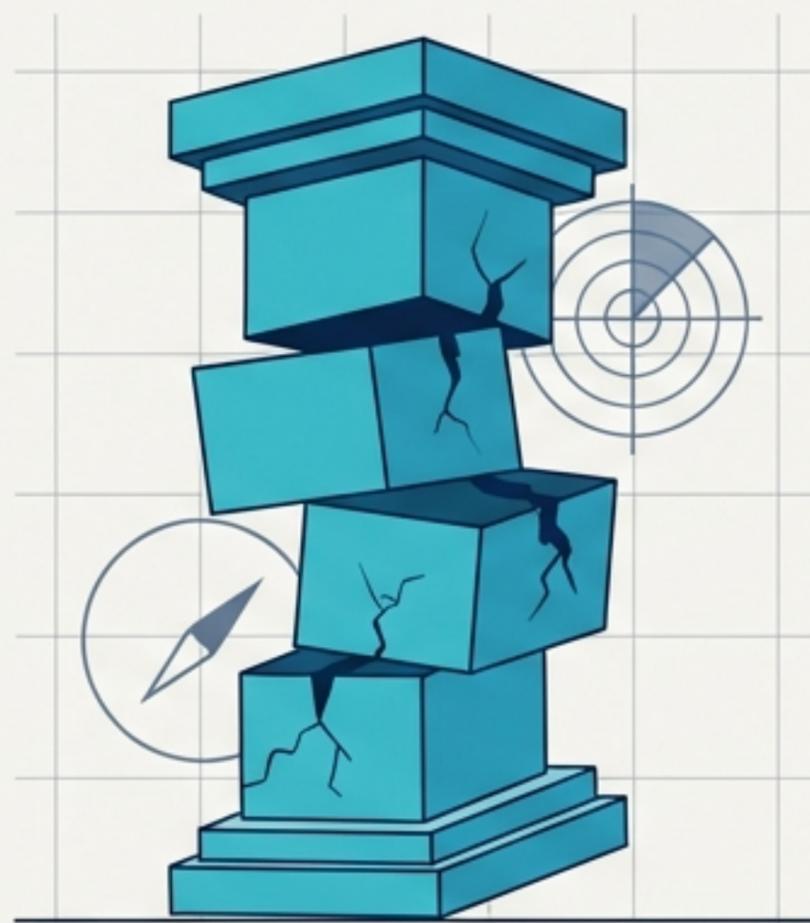
# サイクル理論を学んだ者がぶつかる「3つの壁」

「周期で相場が読めるのでは？」という期待は、以下のズレによって崩壊します。



## ⚠️ 起点の曖昧さ

「安値か？戻り高値か？」  
人によってスタート地点が違う。



## ⚠️ バー本数のズレ

「〇本で1サイクル」に収まらない。  
早く終わる、遅れる。



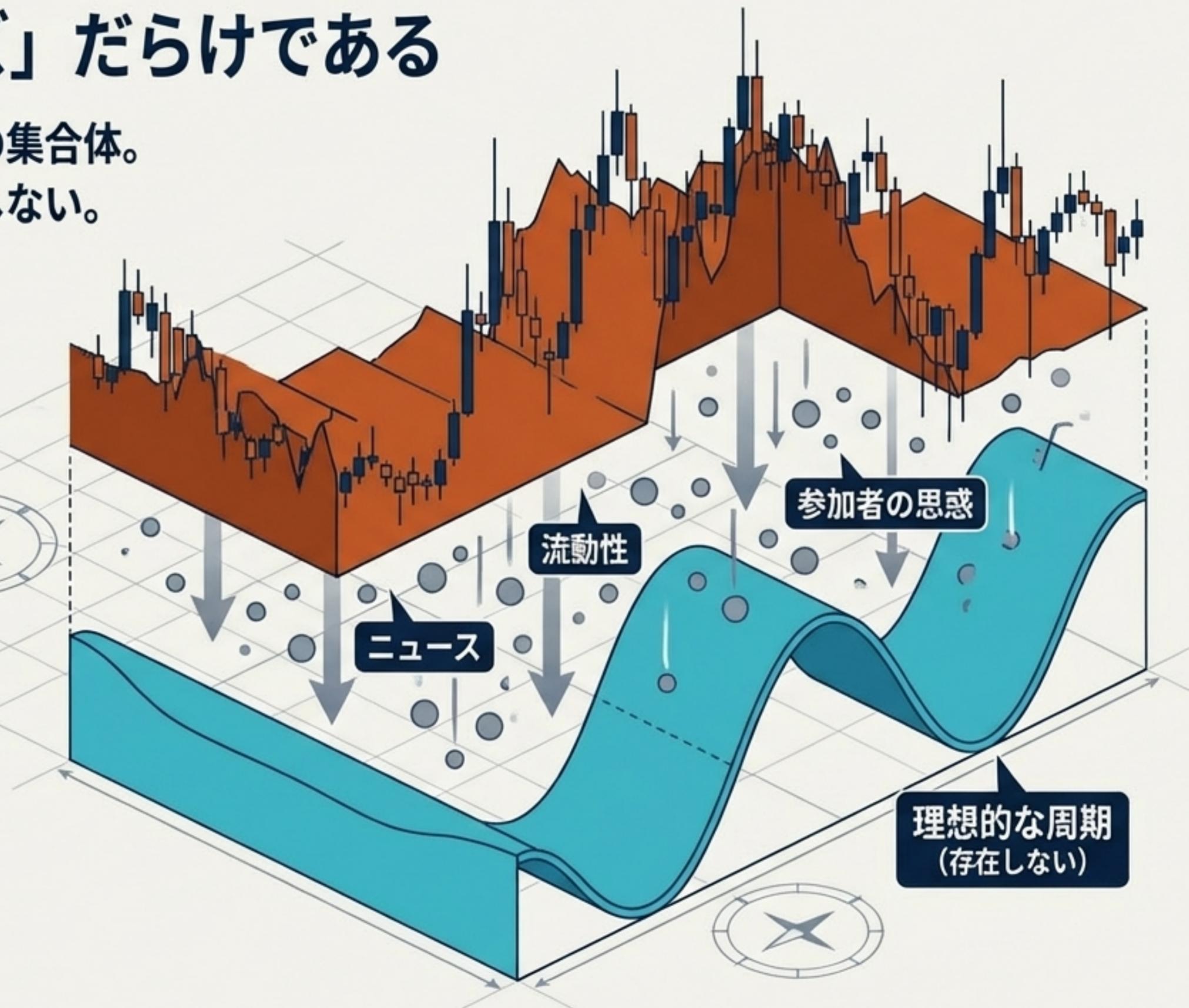
## ⚠️ リアルタイムの麻痺

後付けなら綺麗に見えるが、現在進行形  
ではどこで判断すればいいかわからない。

結果、再現性が取れず「使えない手法」として捨てられる。

# 本質：相場は「ノイズ」だらけである

市場は様々な外的要素（ノイズ）の集合体。  
完全な一定周期で動く相場は存在しない。



👉 「ズレるのが正常」  
と認識せよ。

# パラダイムシフト：正しい「扱い方」への転換

## ✕ 間違った使い方

アプローチ  
周期を「当てにいく」

フォーカス  
ピッタリ何本目か？

マインドセット  
完璧な予測ツール

## ○ 正しい使い方

アプローチ  
周期を「目安として使う」

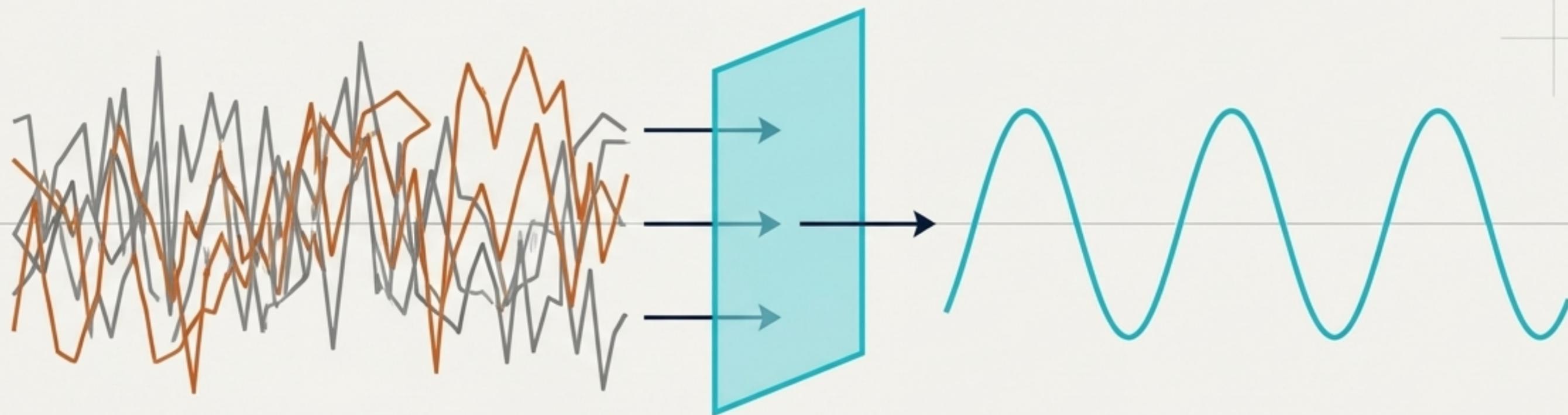
フォーカス  
今がどの辺りか？

マインドセット  
環境認識のレーダー

問題は理論そのものではなく、「正確に当てようとする」扱い方にある。

# 「価格」のノイズを捨て、「時間」の波に乗る

サイクル理論を扱う上で最も重要なのは、価格の上下動ではなく「時間」の経過を見ること。



ダマシやヒゲ

日足基準  
(Daily Time Filter)

整理されたサイクル

## ① ノイズが最小限

日中のランダムな動きが相殺される。

## ② 大口の資金フロー

機関投資家の意図が反映されやすい。

## ③ リズムの可視化

周期の波が最も綺麗に現れる。

# インジケータの真の役割

インジケータは「未来を当てる魔法」ではない。



## ① 視覚化

周期の目安をパッと見て直感的に確認できる。



## ② 属人性の排除

どこから数えるか等、人による「カウントのズレ」を系統的に減らす。



## ③ 認知の節約

複雑な環境認識をシンプルにし、脳の負担を減らす。

👉 あくまで「レーダー（補助ツール）」として割り切る。

# 勝者のための方程式

$$\left[ \begin{array}{l} \text{周期 (Time)} \\ = \text{環境認識} \end{array} \right] + \left[ \begin{array}{l} \text{価格 (Breakout)} \\ = \text{最終判断} \end{array} \right]$$

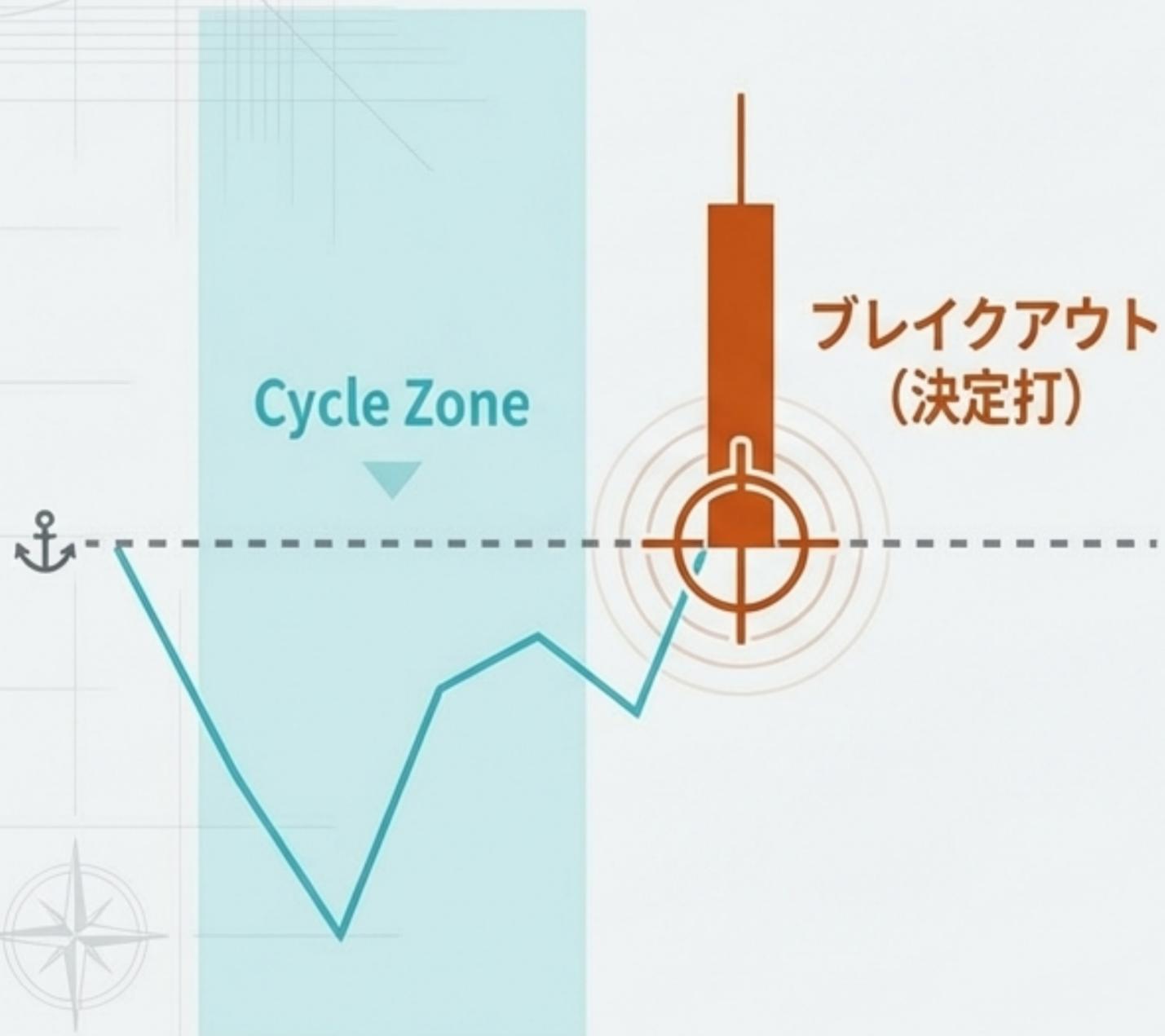
環境認識：レーダーで「今、反転しやすいエリアにいるか」を探知する。

最終判断：実際に価格が動いた事実（トリガー）を見てから撃つ。

⚠ この2つを絶対に混同してはいけない。

# 究極のトリガー：すべては「ブレイクアウト」に委ねる

サイクルで環境を把握した後の最終判断は、必ず「価格の動き」に任せる。



## 1. 圧倒的な客観性

「抜けたか、抜けていないか」の事実のみ。  
人間の希望的観測が入る余地がない。

## 2. 高い再現性

エントリーポイントが明確になり、迷いが消える。

## 3. 検証の容易さ

ダマシも含めてルール化しやすく、過去検証  
(バックテスト) が正確に行える。

# 実践の基本フロー（4ステップ）

## STEP 1: 時間軸の設定

日足チャートを開き、市場のノイズを排除する。

## STEP 2: 現在地の把握

周期（インジケータ等）を用い、「今はサイクルのどの位置か」をざっくりと把握する。

## STEP 3: 待機

予測でフライングせず、価格が重要なラインを形成するのを待つ。

## STEP 4: 執行

価格が明確にブレイクアウトした事実を確認し、抜けた方向へエントリーする。

👉 これだけ。  
複雑なカウントは不要。

# 絶対に避けるべき「3つの負けパターン」

## × 周期を「当て」にいく

「ここで必ず反転するはずだ」と逆張りをして大火傷する。

## × 細かい「本数」にこだわる

「規定のバー本数に達したから」という理由だけで、チャートの形を見ずにエントリーする。

## × 「価格」の事実を無視する

ブレイクアウトしていない（トレンドが転換していない）のに、サイクルの時間だけを見て見切り発車する。

ツール（理論）の限界を知る者だけが、ツールを使いこなせる。

# さらに実践的なスキルを習得するために

理論から実践へ。以下の詳細モジュールでシステムを完成させてください。



## [子記事①] サイクル理論の「起点」の正しい見つけ方

迷いをなくすための、明確なスタート地点の定義。



## [子記事③] なぜサイクルはズレるのか？そのメカニズム

相場のノイズと偏差を理解し、許容範囲を知る。



## [子記事④] インジケータの具体的な設定と使い方

環境認識を自動化・視覚化するツールの活用法。



## [子記事⑤] 実際のトレード 実際のトレードへの完全な落とし込み

リアルチャートを使ったブレイクアウト判定と資金管理。

**周期は目安。最終判断は価格。この掟を守り抜いてください。**